

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **理科** ) 教科担任名

★教科・観点について  
学力向上のための調査・期末テストおよび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
自然事象への関心・意欲・態度	1年	○授業中の話題に関心をもってよく聞き、ノートを積極的にとることができる生徒が多いと感じた。▲しかし、ただ写しただけそこに意識はないという生徒が学年に1割はいるように思える。	・ノートに記入する言葉や図の分量の見直しを図る。 ・映像教材やプレゼンテーションソフトを使い、授業内容に関連する身近な話題に触れ、関心を高める工夫をする  ・ノートの評価について改めて授業で周知する。授業での机間指導で個々の進捗状況を確認し、スピード調整などを行う。 ・ビデオ教材を使い、関心を高める工夫をする。				
	2年	自然事象への関心の高い生徒が多く、演示実験などでも、興味を示して、しっかりと観察することができる。しかし、それを、自分の言葉や、文章で表現するのを、面倒がる生徒も多い。虫などの生物に対しては「怖い」という反応をする生徒が多い。  ○気象の変化について、自身の経験などをふまえて考察しようとする姿勢があった。(野田) ▲休校中の課題として、気象観測を行った。予習的な内容であったこともあり、教科書などを頼りに毎日記録できた生徒とそうでない生徒の差が大きかった。	日頃から“書くこと”を面倒がらずにできるよう、1時間1時間の振り返りを、短くてもいいので、ノートに書かせるようにする。 時間がとれるときに、校庭の動植物を観察したり、生物のビデオを見せるなどしていく。  宿題などを効果的に出し、自学自習の学習習慣の定着を促す。また、授業において、科学を身近なものとして実感できるよう、日常の中にある科学的事象を多く紹介していく。				
	3年	○物体の運動について、「もし異なる条件下で実験を行ったらどうなるか？」や「なぜそうなるか？」などを積極的に考えたり、質問したりすることができた。 ▲複数の実験結果を、比較したり規則性を見出そうとしたりする姿勢が足りないように感じた。	科学的な視点をもって、運動と力の関係を考えられるよう、ヒントなどを適切に与え導いていく。そうすることで、粘り強く自ら考え、人任せや解答に頼りすぎることなく積極的に取り組むことができるようになると考えられる。				
科学的な思考・表現	1年	○学んだ事柄が日常生活とどのように関わっているのか、想像力を膨らませられる生徒が多くいる。 ▲学習内容は自分の生活とは関係ないところの話だと考えている生徒も一定数いる。	・単元の初めに単元に関する問いかけをし、その問いの答えを見付けるために授業を積み上げいく授業形式を整える。 ・授業を通して学んだことを応用する場を設け、思考力を高める機会を設定する。  ・小学校での既習事項を単元、章の初めに確認して、今の学習内容がどのように関連しているのか、その都度伝える。 ・職業との関わり等の話も授業内で取り入れる。				
	2年	頭でじっくりと考えるのが苦手な生徒が多く、問題を読んだ段階で、「無理」と決めつけてしまう傾向がある。また、テストなどでも、知識の問題に比べ、思考の必要な問題の得点が、低くなってしまふ。  ○根拠をもって、自分なりの答えを導くことができた。 ▲高気圧・低気圧と風、天気との関係など、関係性や流れを説明できない生徒がみられた。	問題演習の時間を確保し、頭だけで考えるのではなく、図やグラフを用いながら、ひと工夫するだけで、問題も解きやすくなることを、伝えていく。また、実験もやりっぱなしにせず、実験の結果と考察をしっかりと区別させて、実験のまとめをさせていく。  知識が断片的にならないように、画像や動画を効果的に用いて理解を促すように工夫する。				

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **理科** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストおよび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
観察・実験の技能	3年	○自分の言葉で、科学的事象について説明したり、現象が起きる理由について説明できた。 ▲実験結果から「何がいえるか」を考察できない生徒がみられた。	実験結果(数値)を生かして考察できるよう、身に付けた知識と目の前の現象との関係をつなげる取り組みを多く取り入れる。				
	1年	○授業開きで理科室の使い方の約束を説明した ○ルーペを使った双眼実体顕微鏡で観察やスケッチの方法を取り扱った。 ▲技能項目を使わない時期が続くと安全面の約束や器具の使い方を忘れてしまう生徒もいる。 ○1学期の最後に双眼実体顕微鏡で観察を行った。 ▲今後定期考査や小テストで顕微鏡の取り扱いの設問で検証していく。	・安全を守る技能や正しい器具を使用する技能の定着を図るために繰り返し実験技能の復習に努める。  ・週に1回の授業であることと、単元の特性で実験・観察を後回しにしている。2学期には実施していく。				
	2年	以前に使用した物でも、使い方などを忘れてしまっていることが多い。また、グループ実験では、どうしても、手を出すのを遠慮してしまう生徒がいる。  ○乾湿計を用いて、正しく湿度を読み取ることができた。また、大気が物体へ圧力を及ぼしていることを観察できた。 ▲作図について、書き方を理解できているのに、小さな見落としや矛盾に気づかないことによるミスが多発した。	「前に使ったから」「前と同じ注意だから」ではなく、その都度繰り返し、説明を加えていく。また、グループ実験では、班員の番号などを決めて、決まった生徒だけが中心にならないように割り振りをしていく。  様々なパターン、そして問題数をたくさんこなし、慣れさせる必要がある。特に、細かいところまで注意し作図などがされているかを、教員がしっかり採点する機会を設ける。				
	3年	○記録タイマーを正しく操作して、台車の運動を記録することができた。 ▲結果をグラフに表すことができなかつたり、計算ミスなどが目立ったりした。	授業内で、グラフの縦軸、横軸に何を設定するのが適切か考えたり、公式を使いこなせるよう計算に関わる問題を積極的に扱ったりしていく。				
自然知事象について	1年	○試験に向けて覚えてくるように伝えた内容に対して、正答率が高く、意識をして知識をつけてきたことが分かる。 ▲試験範囲をまんべんなく勉強してこず、理解が不十分の生徒が一定数見られた。	・正しい知識の習得が、思考力や技能力の向上にもつながるため、知識が定着するような発問や課題設定に繰り返し取り組んでいく。  ・試験範囲内の学習に取り組むように、しっかり伝えていく。 小テストを実施し、こまめに定着度を確認していく。 ・できたこと、学べたことをその授業ごとに評価し、伝えていく。				
	2年	新しいことを「学びたい」という気持ちを持ちながらも、その場かぎりで終わってしまう生徒が多い。(小林 順子)  ○知識事項について、期末試験では正答率が高かった。 ▲テスト範囲が短かったこともあり、試験直前しか復習をしない生徒が見られた。	知識・理解を定着させるためにも、ノートの書き方を細かくアドバイスしていく。また、せまい範囲での、小テストを引き続き行っていく。  一夜漬けの学習、一時的な記憶とならないよう、家庭学習の習慣を身に付けるよう指導していく。				

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **理科** ) 教科担任名

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストおよび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
	3年	○知識事項について、意欲的に取り組む姿勢がみられ、その結果、期末試験でも正答率が高かった。 ▲初見問題に弱く、聞き方を変えると答えられなくなる場合がある。	たくさん問題にふれさせ、定着した基礎知識を生かして解答できるようにする。				
授業改善の検証方法	【自然事象への関心・意欲・態度】1学期との提出状況を比較する。 【科学的な思考・表現】レポートや単元の振り返りでの記述内容の変化を見ていく。 【観察・実験の技能】定期考査と小テストで実技問題での解答状況の変化を見ていく。 【自然事象についての知識・理解】定期考査と小テストで知識・理解問題での解答状況の変化を見ていく。						
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		
学び合う力	1年	観察や実験や話し合い活動を通して他の生徒と協働して、課題解決を行う授業展開を実践する。それらの活動を通して、生徒が主体的に学ぶ機会を設けていく。  理科室での実験器具、薬品、生物等の教材を駆使し、どのような観察、実験に取り組むか、学ぶ意欲が前提としてある。その中で、時間内に他と協調する力、起こる事象からどのような考察ができるか、生徒にそのような学び合う力を養う授業を実践していく。	観察活動は学期中1回実施した。3密を避けるという縛りの中で実験や話し合い活動を十分にできたとは言えない。このような状況でも、工夫をしながら、科学的な思考力の向上を促していく。  演習実験、生徒実験は学期中4回実施した。3密を避けるという縛りの中で観察や実験を十分にできたとは言えない。このような状況でも、工夫をしながら、2学期にも観察、実験を通じて理科の知識・理解の定着を促していく。				
	2年	“やってもできない”のではなく、“やらないからできない”という生徒に対して、小テストの中で、とってせまい範囲で、とって簡単な内容のものを用意し、“やればできる”ことを実感させていく。	小テストの内容の多くが、休校中の課題の内容になってしまったので、小テスト直前だけ頑張っても、点に結び付かなかった生徒が多く出てしまった。				
	3年	・分からないことや知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を収集しようとする。 ・見通しをもって計画的に学習を進めようとする。 ・実験結果がうまくでなかったり、立式に誤りがあったとき、何を改善すればよいか考える。	・生徒たちは、自分から情報収集したり考えたりするよりも先に、教員に正解をもとめようとする姿勢が目立った。 ・担当教科について、生徒が計画的に学習しているかどうか的確に把握できなかった。				